

東浦自然環境学習の森基本計画（案）

趣旨

「東浦自然環境学習の森基本計画」は緒川地区の新池周辺、約 17ha を里山として、自然環境の保全を図るとともに、住民が自然に触れ、人と自然の関係を学ぶ場づくりを行うことを目的とした計画です。

本計画は、前計画（「東浦自然環境学習の森基本計画見直し版」）で定めた 5 年が経過したため、東浦自然環境学習の森の現況及び行動計画の整理を行うものです。

目的及び背景

東浦自然環境学習の森は、以前は人の生活と結びついた里山であり、多様な生物が生息する水と緑に恵まれた貴重な場所でした。しかし、生活様式等の変化によって人の手が入らなくなり、竹の繁茂が目立ち、広葉樹が減少している状況にありました。

災害の防止や自然環境を保全するため、愛知県が治山事業を行い、そこで、整備され恵まれた環境を有する新池周辺を、里山として自然環境の保全を図るとともに、住民が里山の自然に触れ、人と自然の関係を学ぶ場づくりを行うことを目的として平成 21 年 4 月に「東浦自然環境学習の森基本計画」を策定しました。

平成 29 年 4 月に見直しを行った「東浦自然環境学習の森基本計画見直し版」では、計画期間を 5 年間と定め、行政と住民が協働し、里山保全及び環境学習の場づくりを実施してきました。

今回は、前計画で定めた 5 年が経過したため、計画の基本方針については前計画を踏襲しつつ、保全活動や活動団体の調査の中で見えてきた森の植生や生息する動植物の生態が変化している計画地の現況及び行動計画の整理を目的として、「東浦自然環境学習の森基本計画」を見直します。

実施機関の考え方

本計画は、里山として自然環境の保全を図るとともに、住民が里山の自然に触れ、人と自然の関係を学ぶ場づくりとなることを目指し、その実現に向け、住民協働による整備、運営管理について示しており、この計画に基づき、里山保全及び環境学習の場づくりを推進していきます。